

「京都府燃料電池自動車(FCV)普及・水素インフラ整備ビジョン」の概要

ビジョン策定の趣旨等

地球温暖化対策を一層推進するため、「水素社会」の実現に向けて、燃料電池自動車(FCV)の普及や水素ステーションの整備に関する目標を定めるとともに、その達成に向けた具体的な取組等を明らかにする。(計画期間:2025年度を見据えつつ、2020年度までの当面5年間とする。)

運輸部門における地球温暖化対策の方向性

- 府地球温暖化対策条例の長期目標(2050年度までに1990年度比で排出量を80%以上削減)の達成には、全保有車両の実走行ベースの平均排出量約200g-CO₂/kmを、60g-CO₂/kmまで低減させる必要
- このためには、「再エネ由来電力+EV」と「再エネ由来水素+FCV」を組み合わせた普及が必要

FCV・水素に期待される役割

地球温暖化対策等の推進

- FCVは走行時にCO₂やNOxを排出せず、地球温暖化対策や大気環境対策に寄与。再生可能エネルギーからの水素製造等が一般化すればCO₂排出量の大幅削減が可能

エネルギー源の多様化

- FCVの普及を通じて水素の社会実装が進むと、エネルギー源の多様化に寄与するとともに、エネルギーセキュリティの向上にも貢献

新たな産業の創出

- FCV関連の技術開発が燃料電池の高性能化など水素社会の実現につながる技術革新を誘導し、新たな産業を創出

非常時等の自立分散型電源の増強

- 高い電力供給能力と移動性を活かし、FCVを非常時等の自立分散型電源として活用

普及目標

目標	FCV	水素ステーション
中期目標 (2025年度)	20,000台	16箇所 (20~30km圏に1箇所)
当面の目標 (2020年度)	1,500台	7箇所 (主要な交通結節点等)

【考え方】

- 政府目標「2020年に新車販売の1%、2030年に3%」を上回る水準での導入を図る

[水素ステーションの整備イメージ(2020年度)]



普及に向けた課題

- 初期需要の創出
FCV普及のための初期需要の喚起
- 技術開発の促進
FCVの低コスト化、水素製造の効率化・低炭素化に向けた技術革新支援
- 規制の見直し
FCV・水素ステーションの普及拡大のための規制改革の促進
- 水素に対する理解の促進
水素の安全性や水素社会の意義等に係る広報・啓発

目標達成に向けた主な重点取組

- ◆ 初期需要の創出
[FCV]
・ 公用車への率先導入
・ 自動車税等の減免継続の必要性検討
[水素ステーション]
・ クリーン水素ステーションの先行導入
- ◆ 技術開発の促進と関連産業の振興
・ 燃料電池フォークリフト等の実証事業
・ 食品残渣からの水素回収の実用化調査
- ◆ 規制の見直しに向けた国への要望
・ 公道と水素充填設備との離隔距離の短縮等の規制の見直しの要望
- ◆ 府民の理解促進
・ イベントでのFCVの展示、試乗会等の実施
・ 写真コンテスト等を通じたFCVの魅力発信
・ 防災訓練におけるFCVの電源機能のPR
・ セミナー開催等による広報・啓発
・ FCV等を活用したCO₂フリー観光の促進